

# 令和7年度 林業普及週間現地情報

森林管理課

アカギヒメヨコバイ防除講演会

9月1日（月）

令和7年9月1日に環境部環境再生課が主催となり、緑化木関係者（県や市町村）、森林組合、造園業者、市民を対象に防除講習会「知って防ごう！アカギヒメヨコバイの生態と効果的な防除法」を開催した。宮古地区の林業普及指導員も実演会場の調整や関係機関への呼びかけを行ったので報告する。

講習会は3講演と防除方法の1つである樹幹注入の実演で構成され、沖縄県緑化推進委員会から「アカギヒメヨコバイの発生動態と駆除について」、大信産業株式会社より「農薬取扱い農薬オルトランカプセルの効果と使用方法について」、「強剪定の問題」についての講演が行われ、強剪定を繰り返したアカギが枯死するケースがあったことや薬剤の優位性（特に樹幹注入について）など説明があった。参加者からは薬剤の地下水への影響や沖縄本島での防除の状況などの質問が挙がるなど関心の高さがうかがえた。会場を移しての実演会では被害が発生しているアカギに対し、穿孔した樹幹に薬剤を打ち込む樹幹注入の説明が行われ、多くの参加者が樹幹注入を体験した。樹幹注入は簡単な施工のポイントはあるものの、一般的な工具や農業資材を用いて特殊な技術も必要ないため、初心者でも施工可能なことから参加者からも自身の管理地で実施可能との声が挙がるなど、各実施主体での防除にむけた意識の向上を図ることができた。

アカギヒメヨコバイ被害は秋ごろからピークになる可能性があることから、今後も引き続き、宮古島内での被害状況に注視し、関係機関と協力して、被害蔓延防止に努めていきたい。



▲講演の様子



▲実演の様子



▲参加者による樹幹注入体験

（報告者：宮古農林水産振興センター 仲宗根、山城、玉城）